

## 第4回縄文遺跡群世界遺産専門家委員会 議事概要

開催日時：令和5年12月12日（火） 13時30分～16時30分

会場：アートホテル盛岡 鳳凰の間

出席委員：稲葉委員長、水ノ江委員、根岸委員、石崎委員、森委員  
※西村委員欠席

出席者：文化庁文化資源活用課鈴木調査官  
縄文遺跡群世界遺産協議会広域委員・管理委員

概要：

### 1. 開会

### 2. 報告事項

#### (1) 縄文遺跡群の来訪者数について【資料1】

事務局から説明後、質疑・意見等を受ける。

○来訪者動向調査の分析結果をどのように生かすのか。

→【事務局】最終的な集計結果を踏まえ、具体的に施策に反映させていく。現時点で想定しているところは、例えば各構成資産への来訪促進、周遊促進。

○来訪者動向調査のサンプル数はどれくらいか。

→【事務局】3千以上。

#### (2) 2022年度縄文遺跡群経過観察年次報告書（案）について【資料2】

事務局から説明後、質疑・意見等を受ける。

○年次報告書案について、10年後の担当者が振り返るときに総括を中心に見るため、数の増加の背景も書いておくとよいような気がする。

○今年、東北地方で熊の被害が報道されていた。それによる遺跡の閉鎖、入場制限のような影響はあったのか。

→【事務局】熊の出現に伴う休園はあった。例えば大森勝山遺跡など。

○10年後、20年後の担当者が年次報告書を見たとき、この年に遺跡であったトピックなども記録として残せるような自由記述的なものもあってもいい。

○総括に「気温や湿度、降水量は大きな変化はなく」とある。1年スケールだと変わらないが、長い目で見ると着実に温度が上がっている。長期間のスケールだと変化はあるが、現在のところ負の影響は出ていないなど、表現を工夫するといいい。

#### (3) 縄文遺跡群保存活用推進行動計画について【資料3】

事務局から説明後、改訂案について質疑・意見等を受ける。行動計画の策定に先立ち、包括的

保存管理計画を改訂する点については異論なし。

○第5章の保存管理にある野生獣は、保存管理だけの問題ではなく、野生獣によりビジターセンターには行くけれども遺跡には行けないなど、価値伝達にも大きく影響してくると感じる。

○野生獣は保存管理なのか、防災なのか。包括的保存管理計画改訂案には防災の項目がない。

→【事務局】最近、熊を含めて野生獣の出現・被害が増えているため、それに対する対策と遺跡を閉鎖した場合の価値伝達のあり方についても考えていかなければいけない。防災については、改訂の際に入りたい。

○第5章第3節に「学術調査研究の継続」とあるが、遺跡が構成資産になっている以上、「発掘調査」という文言が入らないと、何を継続するのかよく分からない。「発掘調査」が目に見えるような構成にしていきたい。

○土の中にあるものをどのように公開していくかという大きな指針はあったほうが良いと思う。

一方で、個別の史跡の保存活用計画と整備計画が、包括にどのようにリンクするのか見えない。

→【事務局】来年度、包括的保存管理計画の改定作業を進めていくなかで、各構成資産の保存活用の方針にも配慮する必要があると思う。各自治体と意見交換・協議し、検討していきたい。

○縄文遺跡群の価値を伝える際、どこの遺跡で何を分担するのかという役割分担の議論をしてもいいのではないかと思う。

○包括的保存管理計画と行動計画の見直しのサイクルも考えていただきたい。

○縄文遺跡群のような遺跡は、世界遺産としてはアジアではここだけであり、日本の中でもモデルケースになる。地下に遺跡が残る場合の展示方法について、モデルになるような保存管理計画ができればいいと思う。

#### (4) 遺産影響評価の取組状況について

※以降、非公開